

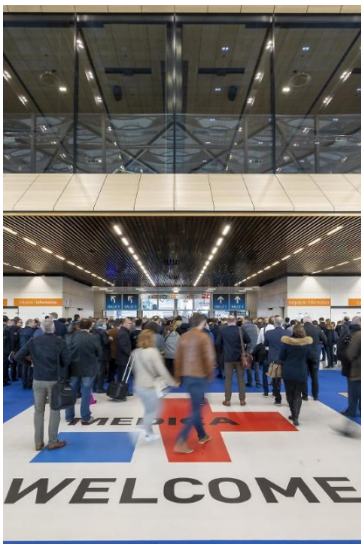
ファイナルレポート



2022年12月9日

株式会社メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン

MEDICA と COMPAMED は、困難な時代において極めて重要な ビジネスプラットフォームであることを示す



MEDICA と COMPAMED は、極めて重要な形で発展を続けています。世界有数の医療機器見本市であり、医療技術供給セクターの国際的 No.1 イベントである両展は、世界的にも厳しい状況が続いているにもかかわらず、昨年に引き続き好調な数字でその成果を印象づけました。出展企業数は大幅に回復しただけでなく、4日間のビジター数も大幅に増加しました。2022年11月14日から17日まで開催された MEDICA 2022 と COMPAMED 2022 には、世界のヘルスケア産業のさまざまな分野から 81,000 人以上が、ドイツ、デュッセルドルフを訪問しました。ここでは 70 カ国から合計 5,000 以上の出展者が、外来患者ケア、臨床ケアのためのさまざまなイノベーションを、その開発や製造のためのすべてのコンポーネント、製品、プロセスを含めて展示発表しました。海外からのビジター割合は 75% となり、欧州に続き、韓国、米国、

インド、北アフリカからの来場者も多く見受けられました。

「国旗を掲げ、イノベティブな製品、技術を展示し、ネットワークを広げる。これらは企業が厳しい市場環境の中で強みを発揮するために選択される手段です。MEDICA と COMPAMED は、その国際的な魅力とビジターの高い意思決定権によって、出展者や参加者に最高の機会を提供しています」と、主催者メッセ・デュッセルドルフの専務取締役 E. ヴィーンカンプは語り、グローバル・ヘルスケア・ビジネスのプラットフォームとしての両展の重要性を強調しました。理由はビジターの 80% 以上は、企業や組織において重要なビジネス上の意思決定に関与しているためです。

MEDICA 2022 を訪れたトップ意思決定者の一人に、ドイツ連邦共和国保健省の Dr. K. ラウターバツハ大臣が挙げられます。大臣は第 45 回ドイツ病院デーのオープニングイベントに参加し、ドイツ政府が計画する病院

改革の重要なポイントについて述べました。また、駐ドイツ・イスラエル大使 R. プロソー氏、ノルトライン・ヴェストファーレン州経済大臣 M. ノイバウアー氏、在デュッセルドルフ日本総領事 河原節子氏も MEDICA のゲストとして参加しました。

<協力とコミュニケーションは産業の原動力>

ダイナミックに変化する市場環境の中で、医療機器メーカーは、国境を越えて病院や外来診療のためのカスタマイズされたソリューションを確実に提供できるよう、生産、マーケティング、販売、アフターサービスのいずれの面でも、これまで以上に協力的なベンチャーを必要としています。このような理由から、MEDICA は国際ビジネスの出発点として重要な位置づけであると、医療技術ネットワーク Medical Mountains のマネージング・ディレクター、I.グリエンケ氏は強調し、次のようにコメントしました。「MEDICA は、私たちや私たちのネットワークに参加している企業にとって、人脈を広げ、共同プロジェクトのパートナーを見つけるための重要なプラットフォームです。MEDICA TECH FORUM では、この2つの側面が一体となり、今回初めて、私たちは業界団体の SPECTARIS とともに専門知識を提供し、ネットワーキング・イブニングを開催することができました。協力とコミュニケーションは、医療技術業界を発展させる原動力です」

業界団体 SPECTARIS と Medical Mountains が共同で開催したこのフォーラムでは、今日、特に関連性の高い医療技術に関するトピックの概要が紹介されました。中でも、英国、ノルウェー、中国など特定の国の市場に関連する製品承認、認証問題、市場の特殊性などの側面に関するセッションは、参加者から非常に高い評価を受けました。

<デジタル化にフォーカス - スマートなプロセスのためのイノベーション>

専門家フォーラムや併催のカンファレンスで発表された豊富なイノベーションと集中的に議論されたテーマは新型コロナウイルスであり、そのため、ほぼすべての国で、ヘルスケアのデジタル化がより大きな焦点となっています。また、サービスプロバイダーが人材とコストの面で厳しい状況にあることから、スマートプロセスのための革新的なソリューションに向けた製品開発が進められています。

新型コロナウイルスの感染拡大や、外来診療の増加傾向を背景に、ポイントオブケア、すなわち患者の立場に立った診断と治療のための製品やサービスは、依然として高い需要があります。COVID-19: MEDICA LABMED FORUM では、「The Challenge Remains」と題し、医学的な視点に立ち、内容的にもそのギャップを埋めるような内容を提供しました。常に新しいウイルス変異株をベースに、現在の課題が議論され、それに合わせて診断と治療（キーワード：ワクチン開発）の両方を改善する必要があることが議論されました。そのため、新型コロナウイルスの検出、抗体を用いた免疫検査、新型コロナウイルス汎用ワクチン開発へのアプローチなどが取り上げられました。

一方、医療のデジタル化とスマートプロセスの需要は、デジタル関連のスタートアップ・シーンに利益

をもたらしています。会期中、スタートアップ企業にはさまざまな発表の場が提供されました。デジタルヘルスのトレンドに関する対話プラットフォームである MEDICA CONNECTED HEALTHCARE FORUM、そして約 40 社が参加する大規模な共同ブースである MEDICA START-UP PARK は特筆に価するものです。毎年、優れたデジタルイノベーションに焦点を当てた「第 11 回 MEDICA START-UP COMPETITION」では、最終ピッチでスペインのスタートアップ企業 IDOVEN が、クラウド型の AI 支援による心電図解析のプラットフォームで優勝を飾りました。

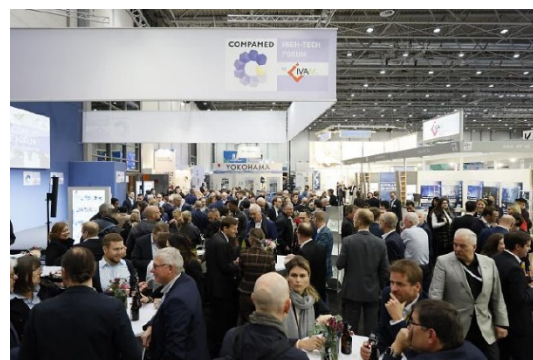
<実益のある AI とロボティクス>

MEDICA 2022 でスタートアップ企業が発表したその他のイノベーションのポートフォリオは、胎児をワイヤレスでモニタリングする手のひらサイズのシステム（日本出展者、メロディ・インターナショナル株式会社）、特殊な輪郭フィッティング機能を備えた超音波ヘッドから、目の動きに基づく神経認知障害の精密診断や電子カルテの簡略化など、AI に基づく多数のソリューションまで、多岐に渡りました。

医療従事者への支援といえば。MEDICA 2022 では、フラウンホーファー IPA の研究者が、医療スタッフの立ち会いを必要としない、入院患者の問診を行うシステムを発表しました。高度なセンサー技術によってバイタルデータが自動的に記録され、アバターが患者への問診をアシストします。KUKA Deutschland GmbH（ロボティクス部門）の医療用ロボティクス販売担当副社長である A.ウェーバーも、プロセスの自動化の流れを確認しています。「MEDICA は世界最大の医療機器展です。私たちがこの見本市に参加するのは、弊社のイノベティブな技術を紹介するための理想的なプラットフォームだからです。私たちのロボティクスは、明日の医療技術を創出しています。トレンドのひとつに、医療技術におけるシステムの自律性が高まっていることが挙げられます。将来的には、多数のセンサーと AI のサポートにより、より多くの作業を独立して行うことができる見通しです。例えば、リハビリテーションでは既にそうなっています。しかし、将来的には外科手術でもより多く見られるようになると思います」

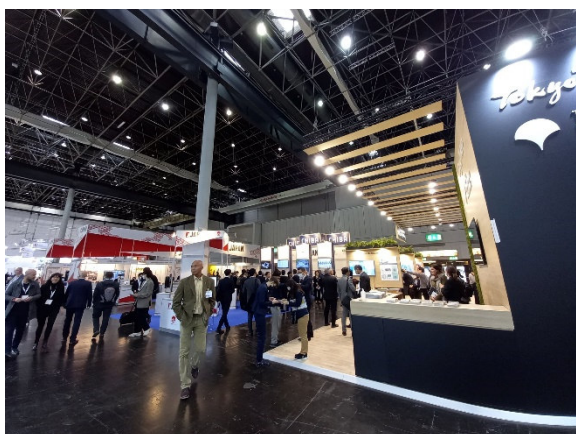
<同時開催 COMPAMED: 最先端技術のための最先端ノウハウ>

最先端技術を使って最高のパフォーマンスを発揮するための重要な基盤となる加工技術、部材などは、ホール 8a と 8b で開催の COMPAMED に出展している約 700 社の企業によって提供されました。これらの企業は、モバイル診断機器（ウェアラブルを含む）、インプラント、実験装置用のセンサー、バッテリー、チップ、生体適合性、超密封コーティング、無線モジュールなど、高性能コンポーネントやデジタル化ソリューションの全範囲を医療機器製造産業に提供しています。マイクロ流体工学は現在、特に注目



されているテーマであり、業界団体 IVAM が開催した COMPAMED HIGH-TECH FORUM でも、2つのプログラムセッションが行われ、多くの参加者が集まりました。最小限の設置スペースで液体を扱うことは、実験室の医療検査手順にとって重要であり、新型コロナウイルス感染拡大の結果、持続的に注目されるようになりました。

<日本から両展合計 126 社が出展、3 年ぶりの出展者をはじめ多くの日本企業が商談に手応え>



日本企業の出展者は今年、MEDICA,COMPAMED を合わせて 126 社（MEDICA 81 社、COMPAMED 45 社）が出展しました（欧州などからの日系現地法人出展は上記とは別に 25 社出展）。日本政府の水際対策が大幅に緩和され、日本からの出展者数は昨年の 61 社より倍増となりました。商談も既存顧客との 3 年ぶりの対面ミーティングはもちろん、新規顧客やパートナーの開拓を目指した商談が、コロナ禍での空白を埋めるべく、各社ブースで熱心に行われ、「引き合い案件数もコロナ前に戻った」という声も日本出展者から寄せら

れました。

MEDICA グループ出展としては、ホール 15 に**ジェットロ**運営の**ジャパン・パビリオン**、**千葉県パビリオン**、**東京都パビリオン**が設置されました（写真・上）。ジャパン・パビリオンはブース面積を昨年比 2 倍で、22 の日本中小企業、スタートアップ企業が出展し、デュッセルドルフ市と姉妹都市関係にある千葉県パビリオンは同市の S.ケラー市長の表敬訪問を受けました。東京都は COMPAMED に続く 2 つ目のパビリオン出展となりました。ホール 6 では**ユニシス**が例年通り、ジャパン・ブランドをコンセプトに日本中小企業のパビリオンを今回も設置しました。

同じく COMPAMED では**さいたま市**、**福島県**、**信州大学**（写真・右）、**横浜市**が今回もパビリオンを設置し、**東京都パビリオン**も 3 年ぶりの出展となり、各自治体の中小企業や取引メーカーの出展や商談をサポートしました。

MEDICA 日本出展者の同展参加に関するコメントを以下に紹介します。



「昨年と比べ物にならないくらい盛況でした。コロナ以前の MEDICA にすっかり戻った感があります」（**メロディ・インターナショナル/Start-Up Park/メイン出展製品・モバイル分娩監視装置**）

「来場者数は復調傾向にあり、コロナの時期にインターネットでのマーケティングに努めていた相乗効果で比較的良質な引合が得られたと考えています」（**安井/医療用鉤**）

「欧州・中東・南アジアのお客様が多く、50社ほどの見込み客との接点が持てました、うち、商談を通し、具体的なビジネスに発展しそうなお客様もあり、出展の成果は出ていたと考えられます」(ニットーボーメディカル/ OEM 体外診断用医薬品)

「コロナ禍前に戻るまで至らないが、来訪者・商談とも増加。継続して出展している為、我々も MDEICA での見せ方・商談に慣れた為感触の良い商談が増加した。約 60%は機器メーカー、40%が販売会社で機器メーカーは自社の機器に使用を検討したいとの商談。今後も継続して出展したいと考えている」(アイ・メデックス/千葉県パビリオン/心電図計測用電極)



「コロナ禍の影響を懸念しての出展であったが、例年並みの来場者であり、予想以上の効果が認められた。未開拓地域からの商品販売希望を数件得た」(ミナト医科学・写真/ウォーターマッサーベッド、腰椎頸椎牽引器など)

「昨年と比べると来場者もだいぶ多かったので、盛況ぶりはコロナ前に戻りつつあると感じた。メキシコของบริษัทからも年間 20 台程度購入したいとの引き合いがあった」(OLPASO/ジェトロ・パ

ビリオン/採血管準備装置)

「初めての日本国外出展だったが、想定以上に弊社ブースに立ち寄り下さる方が多く、今後の海外展開に向けてポジティブな印象を持って MEDICA 出展を終える事が出来た」(グレースイメージング/ジェトロ・パビリオン/汗中乳酸センサ)

「終始来客があり、たくさんの名刺交換ができました。手応えが感じられた出展となりました。また、多くのコンタクト先が、弊社のターゲットであるディストリビューターでした。販路開拓に向け、今後のフォロー活動に注力します」(ホームーイオン研究所 /リハビリ用 EMS 機器)

次に COMPAMED 日本出展者の同展参加に関するコメントを以下に紹介します。

「今回は 4 社が初出展、残り 4 社が数回目の出展となった。各社とも概ね結果は良好で満足した結果になったと感じている。今まで展示会に参加してもなかなか結果が得られなかった企業が今回多くの案件を得る事に成功し、今まで 3 回出展した中で一番良かったと報告してくれた。継続して参加している事、それに伴い招待先が増えている事、海外展示会慣れして営業方法、展示方法がわかってきた事を理由に上げてくれた。非常にうれしい事である。また MDJ にはきめ細かい対応をしていただき、今展示会に安心して参加する事が出来、大変感謝している」(信州大学)

「コロナが収束しつつある中での初の出展となりましたが、それなりのご来場者数があり、商談数も多かったため、今後の進展次第では、成約数は期待以上に見込めそうです。今後、機密保持契約を結んだ後、図面が送付され、御見積書の提出から始めます」(金子製作所 /医療機器の精密部品や極小部品を製造するための切削加工技術)

「前月の K-Show 2022 の展示内容の一部を流用する形で、今回初出展させて頂きました。近隣ホールの出展社は弊社の潜在的顧客となる企業様が多く、業界の動向調査や、ブース周り等の能動的な P R 活動も展開できたことで、トータルでの出展メリットはあったかと思えます。来年の出展は今回得た商談の進展次第ではありますが、次回は会期前の多角的な集客の展開により力を入れたいと思えます」(プラ技研 /プラスチック押出成形装置)

「COMPAMED では、福島県ブースに約 5 4 0 名の方が来場され、出展企業におかれましては会期中に N D A を締結するなど非常に成果があったという企業が多くございました。今回初出展の企業もブース来場者だけでなく、自ら他の出展者を訪問することにより非常に有益な意見交換を行うことができ、来年度以降も是非とも出展したいとのご意見をいただくことができました」(福島県)

両展日本出展企業のコメントは以下でもお読みいただけます。

「MEDICA 出展者の声」 <https://medica.messe-dus.co.jp/exhibitors/testimonials>

「COMPAMED 出展者の声」 <https://compamed.messe-dus.co.jp/exhibitors/testimonials>

その他の情報は以下にてご確認ください。

<https://www.medica-tradefair.com> <https://medica.messe-dus.co.jp/>
<https://www.compamed-tradefair.com> <https://compamed.messe-dus.co.jp/>

次回の MEDICA、COMPAMED は 2023 年 11 月 13-16 日、ドイツ・デュッセルドルフにて開催されます。

また、メッセ・デュッセルドルフグループがグローバルに手がける医療業界向けメッセの情報は、こちらからオンラインでご覧ください：<https://www.medicaliance.global>

【本リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン 担当：服部

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 4-1

ニューオータニ ガーデンコート 7F

TEL: 03-5210-9951 Mail: mdj@messe-dus.co.jp